

## 注意して観察！ 子どものアトピー性皮膚炎

健康エクスプレス No. 29

食べ物に反応しやすいのが子どものアトピー性皮膚炎。しかし、成長するに従って徐々にその原因が変化します。今回は、気を付けたい子どものアトピー性皮膚炎を理解しましょう。

### そもそもアトピーとは？

#### (1) アトピーとは？

アトピーとは、ギリシャ語に由来した「奇妙な病気」という意味で、「アレルギー」という奇妙な病気を起こしやすい体質を意味する言葉として使われています。この体質により発症する皮膚の炎症をアトピー性皮膚炎と呼びます。このアトピー性皮膚炎の原因は体内に入った異物に対する反応で、以前にご紹介した「花粉症」と同じ過剰な抗原抗体反応によって起こる病的状態なのです。

かつては、このアトピー性皮膚炎は子どもの病気と考えられており、実際に成長するにつれて治る方が多かったのですが、最近では大人になっても治らなかつたり、むしろ、大人になってから発症する方がいるのです。従って、単にアトピー体質だけがアトピー性皮膚炎の原因でなく、皮膚機能の異常やストレスなどもその原因と考えられるようになってきています。

#### (2) 食べ物に反応が出やすい乳児期のアトピー

アレルギー反応の原因としては、食品、ハウスダスト、ダニ、ストレス、といった様々な原因(アレルゲン)が存在します。しかし、乳児の場合はほとんどが、食品が原因となります。特に、初めて口にする食べ物については、アレルギー反応が出やすくなり、アトピー性皮膚炎が起こることがありますが、食べ物に慣れるにつれて治まっていくことが認められています。従って、二歳未満の乳児期では食べ物により皮膚に赤味が出たとしても、アトピーとは限りませんから、悪化傾向が観察されなければ、しばらくは様子を見ることで大丈夫です。

#### (3) 気を付けたい幼児期のアトピー

二歳以上の幼児期では、食べ物以外のハウスダスト、ダニ、カビ、細菌、ペットのフケ・アカなどがアトピー性皮膚炎の原因となる場合が多く認められます。幼児期には特に皮膚のかさつきに注意しましょう。この点では大人と同じで、乾燥肌は皮膚のバリア機能が低下している状態なので、外部の刺激を受けやすくなります。従って、上記のような直接肌を刺激するものがアトピー性皮膚炎を引き起こす場合がしばしば見られます。

また、小学校を入学するようになると、ストレスがアトピー性皮膚炎の原因となることがありますので、精神状態にも注意を払う必要があります。

### 診断と治療方法は

#### (1) 診断

アトピー性皮膚炎が疑われる場合は、医師の診断を受けます。まずは、問診と視診を受けます。さらに必要があれば、アトピー性皮膚炎の原因となるアレルゲンを突き止めるために血液検査を受けます。血液検査の他に、皮膚検査としてアレルゲンを皮膚に付着させたり、注射したりする検査法もあります。

#### (2) 治療の実際

診断の結果、アトピー性皮膚炎の症状が明らかな場合、主な治療法としては次のものがあります。

薬剤を使用して症状を抑える

主に抗アレルギー剤と言われる薬剤の服用、外用性抗アレルギー剤、白色ワセリンなどの皮膚保護剤の使用。

食物指導

アレルゲンとなる食べ物を控え、代替食品(アレルゲン除去食品)の食事を摂取する方法。ただし、成長障害を防ぐために、成長期には医師の適切な指導によって行わなければなりません。

住環境を整える

ハウスダスト、ダニ、カビ、細菌、ペットのアカ・フケなど、アレルゲン除去可能な電気掃除機などで徹底的に除去する方法。

減感作療法など

そのほかには、花粉症と同様に、少しずつアレルゲンを体内に取り込み体を慣れさせていく治療法などもあります。



《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 A U 赤坂ビル4F TEL.03-3582-4511